

柚かずひ

横臥のそら

朝に昼に

横たわるきょうも

窓をみても

ただしろい痛みが目を灼くだけ

いま人々が何時何曜日を生きているか

しることはかなわない

加速 加熱 発光する

正しく立派なだれかの時間に

残されたわたしを奪われないように

まばゆい昼の暴力に

まぶたをとぎせ

わたしにゆるされた

すこしばかりの

うすやみの夜空には

うろこ模様と

わずかに月が見えたのだった